

牛の尻に札

語り手…木野谷 タマさん (多井、明治 19 年生まれ)

あるところに、「今日は婿さんがござるけん」てて言って、支度して待ちよう
ましたに、婿さんが、うちから出るおっに、
「あそこに後ごろ普請があつたに、どこだい言うところはないだだいど、床にちよつ
と疵があるけに、あそこにお祓いさんを貼れば疵が隠れてとてもええけに、そ
の話をせえやあ」てて言って、

そっから、婿さんが行かれたそうな。

「ここにゃあ普請が出来たけに、ちいと見てござっしゃいな」てて言って、そっか
らぐるぐる縁を回ってなあ、

「ああ、きれいななあ、どこもかしこもきれいななあ、だいど(だけど)、ちよつと床
に節があつけん、ここへお祓いさんを貼ちよけ」て言われて、

「まあ、こら、ほんと、なかなか気がついたもんだなあ、ここへお祓いさんを貼つ
ちよきやあ、この節が隠れてとてもええなあ」てて言って、で、そいで家のうちは
済んで、そいで、

「まあ、この牛を見てござっしゃいなあ」てて言って、そっから、ぐるぐるう(回って)…

「あ、ええ牛だなあ」て言った。ととととと行って、け、ちよつと何したら…

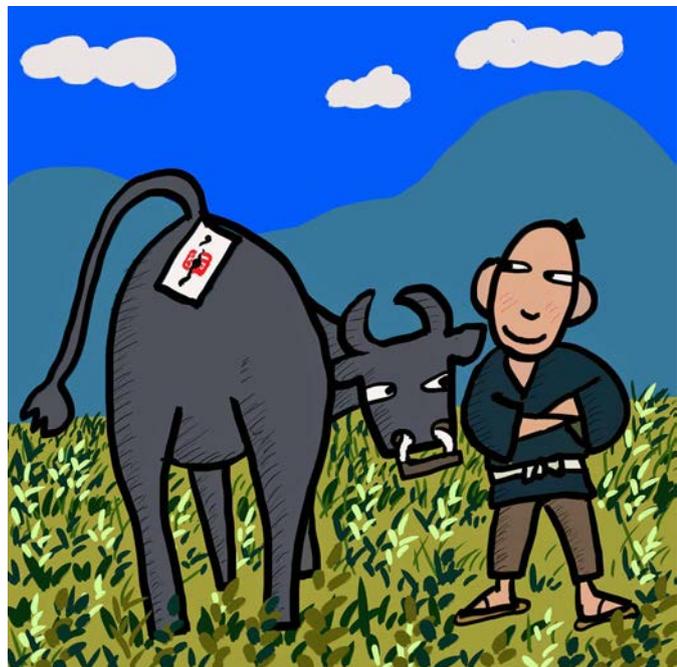
「この牛はとてもええ牛だっど、この尻に
穴が開いてあつけん、あすけえお祓いさ
んを貼ればよかろう」

そっで、こらちいとは変な婿さんだわい
ちゅうが分かったてて。

その昔。

■収 録： 昭和 48 年 8 月 31 日

■聞き手： 三原幸久 大阪外大の女子学生
酒井董美



イラスト／福本隆男(崎出身、三郷市在住)

隠岐島前高校郷土部収録
海士町の民話から(41)

■再話・解説

酒井董美(ただよし)

(山陰民俗学会会長、

元隠岐島前高校郷土部顧問)

【解説】 いつものように関 敬吾博士の『日本昔話大成』で戸籍を調べると笑話の中の愚人譚の下位分類「愚か
聾(息子)」に「馬の尻に札」として出ているのが相当する。次に紹介しておこう。

- 1、愚か聾が舅家の新築祝いに招かれる。柱の節穴に守り札をはれと、教えられたとおりにいってほめられる。
- 2、馬の子が生まれたので見に行く。尻穴に守り札をはれとって失敗する。

木野谷さんの話も馬が牛に変わっているだけで、物語の筋は同じである。したがって各地で楽しんで語られて
いる笑い話として、ここ海士町では愚か聾の失敗談として動物が牛に変化して語り伝えられているのであろう。
私が海士中学校に勤務していたおり、大阪外語大学の三原幸久先生が昔話を調べに来られたので、ご一緒に
木野谷さん宅へ案内してうかがったものである。